優秀賞　低学年の部

大きな声であいさつ

鹿児島県　神村学園初等部 二年　宮里 慈恩

「大きな声であいさつしようね。」
おかあさんがいつものように言いました。ぼくは「分かっているのにな。」と心の中で思いました。おかあさんは、すれちがう人ににっこりわらって
「こんにちは。あついですね。」とあいさつをします。すると、「こんにちは。いい天気ですね。」とあい手の方が、にっこりわらってぼくを見ます。ぼくは、かおを下にむけて小さな声で「こんにちは。」とだけ言います。「あらあら、大きな声であいさつしなくっちゃっ。」とおかあさんの目が言っています。ぼくだって、大きな声を出そうと思っているのに。なぜだか、いつも声が小さくなってしまうのです。
「大きな声であいさつすると、みんなとなかよくなれるんだよ。」とおかあさんは、何回も教えてくれます。そのたびに「本当に大きな声であいさつするだけでなかよくなれるのかな。」と心の中でうたがってしまいます。
　四月四日、ぼくは二年生になりました。春休みにひっこしをして、新しい学校にはじめてとう校する日です。おかあさんは、おしごとで一しょに行くことができませんでした。朝、おくってくれる車の中で、あいさつのれんしゅうをしました。やっぱり小さな声になるぼくを見て、おかあさんがにっこりわらいながら
「大きな声であいさつをしようね。そうしたら、すぐにお友だちができるよ。」
と話してくれました。ぼくは、やっぱり「本当かな。」と思いながら「本当だといいな。」とも思いました。
「がんばってね。おうえんしているからね。」
とおかあさんに言われて、ぼくは車をおりました。地めんはふわふわするのに、ひざはかちかちにかたくなります。あるくたびに、心ぞうがドクンドクンと大きな音をたてます。
　しぎょうしきの一番はじめに、てん入生のしょうかいがありました。ぼくは、四人のてん入生の中で、一番にあいさつすることになりました。心ぞうは、さっきよりもドクンドクンと大きな音をたてています。大きなわだいこのようにドクンドクン。おかあさんがはっぴょう会でたたく音のようです。ぼくのむねの中で、おかあさんが「じおん、がんばれ。」と力いっぱいおうえんをしてくれているのだと思いました。そうしたら、
「みやさとじおんです。よろしくおねがいします。」
とれんしゅうよりも大きな声が出ました。みんながパチパチと大きなはく手をしてくれました。むねの中のわだいこも、やさしいカチカチという音にかわっています。おかあさんが
「よくできました。」とほめてくれているようです。
　大きな声であいさつできたぼくには、おかあさんの言った通り、すぐお友だちができました。おかあさん、ぼくにあいさつを教えてくれてありがとう。